



第7号
令和8年6月30日

国際教養科主任
水野豪人

ユニクロ “届けよう、服のチカラ” プロジェクト(“The Power of Clothing” Project)始動！
～英語で学ぶ世界の現状と、地球市民(Global Citizen)への第一歩～

■ 私たちがオールイングリッシュで手にした「学び」とは？

去る6月18日(木)の4校時、国際教養科の生徒全員が参加し、「SDGs 特別英語レクチャー」が開催されました。講師にお迎えしたユニクロ本部・生産物流チームのMy Ha(ミーハ)さんのお話は、みなさんの心にどのように響いたでしょうか。

全国約1,000校で実施されているこのプロジェクトの中で、本校は数少ない「英語による講演」を行う学校として実施されました。レクチャーからディスカッションにいたるまで、すべて英語で行われる「オールイングリッシュ」という環境は、みなさんにとって大きな挑戦だったはずですが、日頃から英語を学ぶ国際教養科の仲間全員でこの場を共有し、果敢にチャレンジできたことは、何にも代えがたい貴重な経験となったのではないかと思います。

特に、全員で行ったディスカッションでの発見は今も記憶に新しいのではないのでしょうか。「もし自分が今すぐ国を逃れなければならないとしたら、1つのリュックに何を詰めるか」という問いに対して、多くの人が水やスマートフォンを想像しました。しかし、My Haさんから示された実際の難民の方々の持ち物は、長旅を見据えた「薬」や「歯ブラシ」「ばんそうこう」などでした。あの時、みなさんから「あー」という驚きの声が上がったのを記憶していますが、世界のリアルな現状を肌で感じ、深く理解した瞬間だったのではないのでしょうか。

みなさんが提出してくれた感想の中には、「服を寄付することは、単に不要になった衣服を必要な人に譲るという単純な行為だと思っていました。しかし、話したこともない人と人が『この服の色が好き！』という前向きな感情を、服を通して共有できる素晴らしさに感銘を受け、涙が出ました」と語ってくれた人もいました。私たちはあの1時間を通じて、単に知識を得ただけでなく、「服のチカラ」が持つ本当の価値と、他者のために行動することの尊さを、自分自身の心でしっかりと学ぶことができたはずですが、難しかったかもしれませんが、英語で意見を出し合い、国際社会の課題について真剣に考えたあの経験は、みなさんのこれからの学びや未来において、必ず大きな自信と力になって生きていきます。



■ 早くも始動！第1回リーダー会議報告

講演会で得た熱い学びを、今度は具体的なアクションへと移すべく、6月25日(木)の放課後、第1回目となる「服のチカラプロジェクト・リーダー会議」が開催されました。急な招集であったこともあり、当日どうしても都合がつかず数名の欠席はありましたが、いよいよ私たちのプロジェクトが正式にスタートを切りました。

会議はまず、自己紹介と「どうしてこのプロジェクトのリーダーに立候補したのか」という立候補の動機を共有することから始まりました。メンバーからは、「国際教養科らしいことに積極的にチャレンジしてみたい」「この経験を自分の進路や将来にも生かしていきたい」など、一歩踏み出そうとする率直で前向きな思いが次々と語られました。

本日の会議では、市内にある学校外の4つの協力施設の担当者決めをはじめ、回収用段ボールの数の把握、服の回収ルールの確認、そして生徒や保護者のみなさんへどのように広く伝えていくかという、今後の大きな方針についての話し合いが行われました。今後は、各施設への連絡や訪問によるプロジェクトの説明、そして校内外に掲示するPRポスターの作成など、本格的な活動へと移っていきます。

この話し合いを力強く引っ張ってくれたのが3年生の先輩たちです。みんなの意見を上手に引き出しながら議論をリードしていく姿は、さすが国際教養科の先輩だと感心させられるものでした。議論の冒頭には、3年生から「PRの方法について、良いか悪いかはひとまず置いておいて、まずはどんどん意見を出していこう！」という心強い声掛けがありました。次々とクリエイティブなアイデアが飛び交う、非常に頼もしい時間となりました。

■ 国際教養科全員で、このプロジェクトを成功させよう

リーダーたちの議論は非常に真剣で、その熱意はすでに校外へと広がり始めています。会議の中では、「回収をお願いする外部の施設をさらに増やせないか」「生徒だけでなく、教職員の先生方にも広く呼び掛けよう」といった提案もなされ、これからこの活動がさらに大きな波となっていくことが予感されます。

今回のプロジェクトで私たちが集めるのは「子ども服」です。今後、リーダー以外の生徒のみなさんにも、ポスターの掲示協力やクラス内での呼び掛け、そして実際の回収作業など、協力してもらおう場面が数多く出てくると思います。その時はぜひ、あの講演会で全員が学んだ「服のチカラ」を思い出し、一人ひとりが当事者として力を貸してください。リーダーたちを中心としながら、この国際教養科全体で一丸となって、このプロジェクトを大成功へと導きましょう。

私たちがたくさんのお洋服を集めて届けることができれば、それは間違いなく、世界のどこかで困っている誰かのためになります。そして、他者のために全力で行動するとき、それは巡り巡って、必ず自分自身の成長の糧となり、良い経験となり、そして何にも代えがたい幸福感へとつながるはずです。「情けは人の為ならず」です。

<私たちがリーダーを務めます！みなさん、がんばりましょう！>

1年3組(4名) 中川絢愛 日西楓 山崎渚音 吉田穂花

2年3組(4名) 伊藤静良 工藤椿心 舘山紘武 林とわこ

3年3組(5名) 牛島要 大本羽留 佐久間咲桜 長尾光 鷲谷月子

